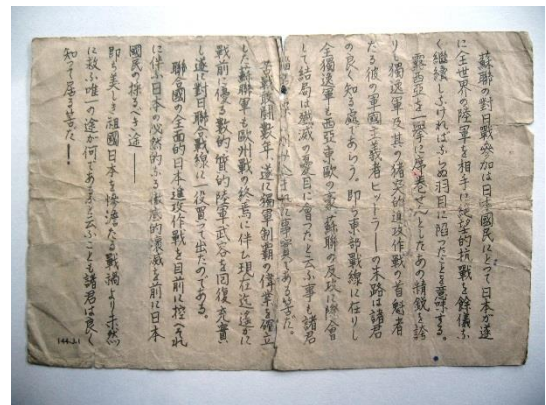


NO27

終戦直前にまかれた宣伝ビラ

所在地は松阪市垣鼻町（個人所有）（三交バス「久保中学校前」下車徒歩5分）



終戦直前の1945年8月10日。

長崎に原爆が投下され、ソ連が対日参戦をした翌日のことである。

松阪にあった軍需工場に米軍機から宣伝ビラが投下された。ソ連軍と日本軍が笑顔で「感激の握手」をする絵の裏側に書かれた文は、日本に降伏をすすめる次のような文ではじまる。

ーソ連軍の対日戦参加は日本国民にとって日本がついに絶望的抗戦を余儀なく継続しなければならぬ羽目に陥ったことを意味するー

ビラは憲兵によってすぐに回収され、守衛所には「今日のビラをこの箱にいれた者は罪に問わない」といった張り紙と箱が設置された。しかし、このビラの所有者はうっかりポケットに入れてもち帰り、家で気づいて「たいへんなことをした」と青ざめたそうである。

それから六十年あまり…大切に保管されていたこのビラは、終戦を急ぐ当時の連合軍の思惑や、シベリヤ抑留などを生んだソ連参戦という混沌とした時代を、今も物語ってくれている。